HELLO
ハローインタビュー

SJ60特別インタビュー

SINGAPORE - JAPAN
DIPLOMATIC RELATIONS
1966 - 2026



SJ60フラッグシップイベント タスクフォース長 大保彰充（だいぼあきみつ）さん

苦労も楽しさに変えられると信じています

11月28日(土)、29日(日)にMarina Bay Sandsで開催される「SJ60 結 -Musubi- Singapore-Japan Festival 2026」。今回は、同イベントのSJ60フラッグシップイベント・タスクフォース長としてご活躍中の大保彰充さんにお話を伺いました。

<プロフィール>
中央大学国際経済学部を卒業後、98年に新卒で当時の日本交通公社(現JTB)に入社。教育事業部で15年間勤務した後、ハワイ・ホノルル支店へ赴任。その後、法人営業やグローバル統括本部を経て2023年1月からJTBシンガポール支店長。日本人会地域社会交流部部長。

聞き手
シンガポール日本人学校小学部クレメンティ校教諭
佐々木美空、三宅直哉、鈴木孔大

Q　大保さんはいつシンガポールにいらしたんですか。

大保さん　2023年1月7日にシンガポールに着任しました。

Q　シンガポールはどんな国だと感じていらっしゃいますか。

大保さん　人・文化・情報が交わるアジアの交差点であり、ビジネス、観光のハブになっているな！と感じました。仕事をする上でも「気づきと学び」の連続で大変充実した日々を過ごしています。


佐々木美空教諭

Q　普段はどんなお仕事をされているんですか。

大保さん　日本からシンガポールに訪れた日本人のお客様が、安心してシンガポールをお楽しみいただき、リピーターになっていただけるような取り組みを行っています。また、シンガポール国内では、日系企業様やシンガポール企業様へ法人サービスのご提供や様々なイベント運営を行ったり、シンガポールの方々へ日本の魅力を発信し、日本へのご旅行を企画し販売したりしています。

Q　海外でお仕事をする上で大事なことはなんだと思いますか。

大保さん　コミュニケーション能力だと思います。この人はどう思っているだろうとか、どういうサジェスチョンをしてあげたらこの人はハッピーになるだろうとか、聴き取る力や感じ取る力を含めてコミュニケーション能力だと思っています。言葉の違いをコミュニケーション能力でカバーしながら、しっかりと相手の信頼を得て、自分自身も英語をインプルーブしていき、最終的に問題なく意思疎通ができる、そんな姿を見ていると、語学力ももちろん必要ですが、聴き取る力、感じ取る力を持っているほうが、大事だとすごく感じます。


三宅直哉教諭

Q　大保さんがこれまでに訪れたなかで、おすすめの国や場所はどこですか。

大保さん　四季ごとに様々な顔を見せてくれる日本がおすすめの国ですが、日本以外ですとオーストラリアですね。一つの国で、世界の気候を体験でき、地球の鼓動を感じる場所です。特にエアーズロックは、地球と一体化できる場所だと感じました。あの時の、地球の一部をみているような感覚は、今でも鮮明に覚えています。

Q　本題に入りますが、今日は11月28日、29日に開催されるSJ60フラッグシップイベントについて伺わせてください。どんなイベントになるのか教えていただけますか。

大保さん　このイベントは、日本とシンガポールの外交関係樹立60周年をお祝いし、これからも末永く、更なる関係性の向上を継続させる為に開催されます。イベントでは、日本の多様な魅力を体験してもらうとともに、日本とシンガポールのこれまでの歩みを



SJ60フラッグシップイベント・タスクフォースの皆さん
（大保彰充さんより写真ご提供）



（左から）佐藤秀昭さん、大保彰充さん、芦田陽さん

も感じてもらえるようなインタラクティブな展示等を行います。メインテーマ：結（Musubi）、サブテーマ：「日本とシンガポール、つながる時間」です。下記3点がポイントとなります。
①シンガポール国民がこれまで日本に対して示してきた友情とホスピタリティに対する当地日本コミュニティからの感謝の意を示す。
②シンガポールと日本が築いてきたパートナーシップという資産を次世代へ継承し、深化させていくムードを盛り上げる。
③ 日本人コミュニティとシンガポール人コミュニティの交流促進。



鈴木孔大教諭

Q　シンガポール日本人学校小学部6年生の児童は、イベントで“ソーラン節”を披露させていただきます。本校の子どもたちに向けて、メッセージをお願いします。

大保さん　これから主役となる子どもたちが、60周年という節目の年にソーラン節を披露することでイベントにコミットしていただけるのは、次の周年に向けて価値あるものだと考えています。私たちも子どもたちにバトンパスできるよう、しっかりと準備していきたいと思います。そして、このイベントが彼らにとって良き想い出となり、いろんなきっかけに繋がると嬉しいです。

Q　二日間のイベントで「ここを見てほしい」というおすすめがあれば、教えて下さい。

大保さん　まだ、企画試案中である為、詳細な事は言えませんが、日本の魅力と両国間の結（Musubi）を感じられるイベントにしていきたいと思います。ご参加いただける方は、ぜひ、「まだ知らない日本の魅力」、「両国間のこれまでの歩み」などを感じていただければと思います。



日本人会オーキッドルームでのインタビューの様子
インタビューは2026年9月5日に行われました。

Q　大保さんはSJ60フラッグシップイベントのタスクフォース長ということで、様々なご苦労があったと思いますが、どんなことが大変でしたか。

大保さん　苦労など、ありません。JTBシンガポール支店の支店長という事でタスクフォース長という肩書きを拝命いただいておりますが、SJ60に携わる全ての方々が、何事にも「親身に」、「懸命に」、「協力的に」関わっていただいているので、感謝の想いしかありません。当日が近くなり、オペレーション等では、苦労をする事はあると思いますが、これだけの大きなイベントであれば、その様な苦労は付き物だと思っています。しかしながら、このタスクフォースに関わっていただいている仲間の皆様であれば、苦労も楽しさに変えられると信じています。

Q　最後に、日本人会会員へのメッセージをお願いします。

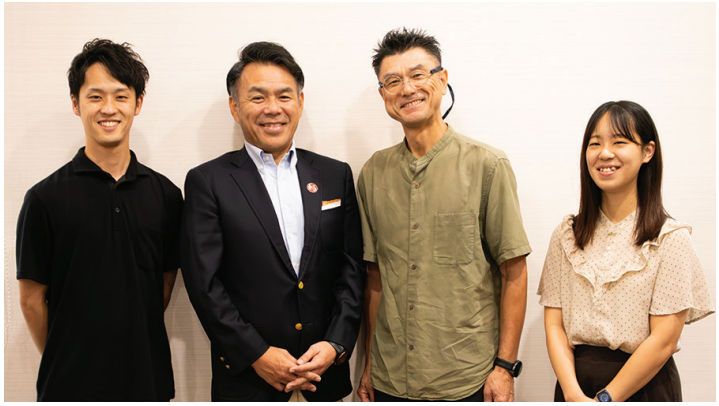
大保さん　日本人会で活動をすると、日本を離れて生活をする我々にとって、日本の素晴らしさに気づかされます。この素晴らしさを長きに渡り、駐在員や在星邦人の皆様、シンガポールの方々へ発信し続けていただき感謝申し上げます。私も微力ながら日本人会会員として、魅力発信のお手伝いができればと思います。

文責・写真：
シンガポール日本人学校小学部クレメンティ校教諭
佐々木美空、三宅直哉、鈴木孔大

インタビュー後談

SJ60フラッグシップイベント・タスクフォース長、大保さんにインタビューさせていただけたこと、大変嬉しく思います。大保さんの仕事への情熱、イベントの魅力について詳しくお話を聞くことができて、このイベントに対する期待感がさらに高まりました。また、本校の児童も参加させていただくということで、子どもたちには、目的意識を持って堂々と参加してきてほしいと思います。お仕事の話からプライベートな話まで、私たちの質問に丁寧に答えてくださり、大保さんの識見の深さに加え、お人柄の良さが伝わってくる楽しく有意義な時間を過ごすことができました。

（佐々木美空）



（左から）鈴木孔大教諭、大保彰充さん、三宅直哉教諭、佐々木美空教諭